

平成 29 年度第 1 回横浜市創造界隈形成推進委員会 議事録	
日 時	平成 29 年 7 月 11 日 (火) 13:45~15:15
開催場所	YCC ヨコハマ創造都市センター 3 階スペース
出席者 (敬称略)	<p>■委員 恵良隆二 (委員長)、久野敦子 (副委員長)、菅野幸子、鈴木淳、日沼禎子、六川勝仁</p> <p>■事務局 (説明者等) 中山こずゑ (文化観光局長) 富士田学 (文化芸術創造都市推進部長) 神部浩 (文化プログラム推進部長) 小泉宏 (創造都市推進課長) 中野浩一郎 (創造都市推進課担当課長) 河本一満 (創造都市推進課まちづくり担当課長) 松元公良 (文化プログラム推進課長) 野田日文 (文化プログラム推進課トリエンナーレ担当課長) 高田聡 (創造都市推進課担当係長) 平原雄 (創造都市推進課担当係長) 大橋礼昌 (創造都市推進課担当係長) 安藤亜矢 (創造都市推進課創造まちづくり担当係長) 安藤準也 (創造都市推進課創造まちづくり担当係長) 田村賢太 (文化プログラム推進課トリエンナーレ担当係長)</p>
欠席者	野原卓、若林朋子、清水克彦 (オブザーバー)
開催形態	議題 1 公開 (傍聴者 2 名) / 議題 2 非公開
議 題	1 平成 28 年度事業評価 2 その他
決定事項	
	<p>事務局 【開会】</p> <p>事務局 【委員・事務局紹介】 ○人事異動があったため、事務局の紹介を行った。</p> <p>事務局 【配布資料の確認】</p> <p>事務局 【定足数の確認】 ○委員 8 名中 6 名の出席があり、委員会設置要綱第 7 条第 3 項により委員会の成立となる。</p> <p>事務局 【本会議・議事録の公開・非公開の決定】 ○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条により原則公開となるが、議題 2 については、第 7 条第 2 項第 5 号の規定に該当するた</p>

<p>議 題 1</p>	<p>恵良委員長</p>	<p>め非公開とする。</p>
	<p>事務局</p>	<p>○それでは議題 1、平成 28 年度事業評価について事務局からの説明をお願いしたい。</p>
	<p>事務局</p>	<p>＜平成 28 年度事業評価について、事務局からの説明及び各分科会の議長から補足説明を行い、議題について審議した。＞</p>
	<p>恵良委員長</p>	<p>〔補足説明〕 ○ありがとうございます。それぞれの分科会議長から補足などあればお願いしたい。</p>
	<p>恵良委員長</p>	<p>○BankART Studio NYK について、依然としてカフェの活性化と広報の 2 つの課題が挙げられる。館全体の実績等については十分に評価しているが、カフェ・ショップの効果的な運営については努力が必要である。ただカフェについては就業環境の改善が見受けられるので、その上でカフェ・ショップの活性化を期待する。広報・パブリシティについては専門家には評価されているが市民には伝わりにくい。ただ広報発信は運営団体の苦手にする部分でもあるので、文化施策全般において創造限界が重要な意味や役割の一部を担っていることを、横浜市の協力を得ながら横浜市民に対してもっと伝えていきたい。創造都市も新たなステージに入るので財団等とも協働で進めていただきたい。</p>
	<p>日沼委員</p>	<p>○初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点について、毎回分科会で議論になるが、市民に開かれたアートを主とするのか、まちづくりに重点を置くのか 2 つのバランスについて議論が行われ、運営体制についても委員から具体的な指摘があった。今年度から運営団体の事務局の体制が変わり、マネジメント面で成長した若手スタッフが卒業するなどパワーダウンしつつあるものの、一方で若手が文化庁事業に携わるなどの活躍を見せている。これは拠点が評価されていることになる。それに伴い委員からは若手育成に向けて周囲の大学生の活用、地域のシニアパワーを活用してはどうかという提案と、拠点全体を支援できる横断的な体制づくり、例えば経理・事務運営などを一体的に行うといった提案があった。また A I R 事業について、平成 29 年度は参加者が減少しており、原因分析を行い今後の展開に期待したい。理由の一つにアートを通じて安心安全のまちになっていることで、アーティストにとっては刺激や魅力不足になっていることが考えられる。今後はパートナーとなるアーティストの需要についても考えていく必要がある。</p>
<p>六川委員</p>	<p>○YCC について、総じて上手く運営しているという評価である。貸館レンタル事業は好調で収益面の柱になってきているが、反面、市民利用は減少している。また地元との連携は少しずつ増えてきている。課題は事業の認</p>	

	菅野委員	<p>知度向上で広報の手法の改善が必要である。横浜市としては自主財源で運営を回していくという運営方法が妥当であったかどうかという検証を行う必要がある。収益を追求することと市民利用はどうしても相反してしまうので、そのあたりを検証していく必要がある。</p> <p>○象の鼻テラスについて、多種多様な事業の展開が行われているが、そのあたりのマネジメントや運営体制が向上してきている。拠点のテーマは文化交易となっているが、拠点の性質上、専門的というよりも一般市民が入ってきやすい場所になる。観光ガイドも常駐していることからインバウンド効果も狙える事業を検討できる余地がある。また防災面についてはオープンな拠点なので、今後は防災・テロ対策などリスクマネジメントにも配慮していきたい。拠点間の横の連携については課題の一つで、文化事業の専門イベントが行われ、他方文化事業のプロの方にリーチできているかについても課題である。創造界限全体にイえるが、横との連携で拠点同士が不得手な部分を補完し合える体制が構築できるといい。また評価の手法については現状だと記述式であるが、具体的な数値目標を設定し、アンケート調査も行い、具体的なニーズの調査が行えるといいといった意見も出てきている。</p>
	久野副委員長	<p>○急な坂スタジオについて、平成 29 年度から新たな 5 年間の運営期間がスタートしている。稼働率は高みを維持しており、運営が安定していることは評価したい。また横浜の芸術団体が多く利用していることやコミュニティルームの利用率が向上していることについては、市民利用が増加していることを示しており、拠点が定着してきたことが伺える。平成 29 年度からは新規事業で海外公演も行うことになり、急な坂スタジオで制作したというキャプションが付いて名前が広く認知されることになる。拠点間の連携については舞台芸術という特性上難しいようであるが、横浜市内の舞台芸術チームと作品制作を行っており、他の拠点と違う展開が行われていることは評価し今後に期待したい。</p>
	鈴木委員	<p>○THE BAYSについて、昨年度内に開業してメディアに取り上げられるなど話題になっており良いスタートを切れている。野球チームのカラーが強くなってしまわないかという懸念はあったが、クリエイションを軸にスポーツや健康要素を取り入れて新たな産業を作ろうとしており、今後新たな産業創造の可能性を秘めている。運営団体は横浜スタジアム周辺のボールパーク構想を持っており、地域活性化についてコミットされていることも評価できる。事業のひとつであるクリエイティブスポーツラボについても参加者が増え活用されている。課題については定期建物賃貸借契約ということもありハードルも高い。運営団体が収益意識を持って運営していかなければならないので、本社機能だけにならないようにクリエイティブ拠点として機能しているか、引き続き当委員会でチェックしていく必要がある。オープンに至るまでは歴史的建築物を活用している性質から、様々な調整事項などを横浜市と運営団体が協力して解決し信頼関係を</p>

		<p>構築してきた。このノウハウを次の同事例の民間活用に生かしていけるようにしたい。官民連携の先進事例としてオープンするまでのプロセスは横浜市が事例としてまとめ、記録に残しておきたい。開館までは準備に忙しくてできなかったが、ようやく5、10年後のビジョンについて本格的に考えられる状況になってきている。</p>
		<p>〔質疑〕</p>
恵良委員長		<p>○補足ありがとうございました。ここまでの各分科会議長の補足説明を含めて質問や意見はあるか。</p>
鈴木委員		<p>○YCCとTHE BAYSは運営団体が自前で収益を上げる努力をしているが、収益が充分でない場合に創造的事業に力を入れることができなくなるなど、当初の目的を達成できなくなることが想定される。採算を取るために独自で踏ん張るのではなく、拠点同士お互いに施設運営をサポートする仕組み、助言を与えるなど外部からのサポート体制構築が必要である。</p>
中山局長		<p>○総務・経理のアウトソーシングは収益性を高める上で必要である。民間企業では取り入れている企業もあり、総務・経理部門を独自で頑張るのは負担が大きいので、ひとつにまとめることで負担を軽減できる手法が取れるのであれば検討していけるといい。</p>
恵良委員長		<p>○中小企業が入居する民間のテナントビルでは、人事や総務的なサービスを提供するケースもみられる。そのあたり各施設の特性を生かした形で議論を深めていけるといい。</p>
菅野委員		<p>○施設間の連携に関連するが、横浜市の拠点形成は全国のまちづくりのモデルとなってきた歴史がある。各拠点の個性を踏まえた上での全体のブランディング、連携、アウトソーシング、スタッフのキャリア形成、マネジメントで変化が起きてきて、文化事業としても認知されつつある。これだけの蓄積も踏まえた上で更なる連携・協力・補強できる体制の仕組みづくりについて議論が行えるといい。また拠点同士のネットワークを一層深めることで全体としてのブランディングについても議論していけるといい。</p>
恵良委員長		<p>○全体のブランディングについてはエリアマネジメントの考え方にもつながる。個と群で考えると、群として行う場合には個と違うマネジメントの手法も必要になってくる。</p>
六川委員		<p>○クリエイティブシティ・ヨコハマはまちづくりという視点でYCCとBankART Studio NYK で当初スタートしたが、最近ではイベント型に偏りがみられる。北仲の大規模開発が行われるタイミングということもあるので、もう一度まちづくりに貢献できる視点を見直す機会にしていきたい。例えば北仲ではエリアマネジメントという考えもあり、創造都市の知名度を上げる良い機会である。そのあたり横浜市にリードしていただきたい。</p>
富士田部長		<p>○拠点間の連携についてはACYの広報連携が考えられる。創造界限全体でのアピールと個別でのアピールの両方があり、その中で横浜市が中心となって役割分担していきたい。まちづくりの視点についてはTHE BAY</p>

		<p>Sは日本大通りの活性化という視点を持っており、黄金町もまちづくりの視点を持っている。YCCも含め、まちづくりの視点を持っていけるよう心掛けていきたい。</p>
日沼委員		<p>○これまでに当委員会でも度々拠点間の連携については議論に挙げられ指摘されてきたが、結論として各拠点が努力しても状況は厳しい。実現できるか分からないが、例えばヨコハマトリエンナーレのサポーター組織があるように、創造界限全体のサポーター組織があるといい。拠点の教育や地域と繋げる役割、広報も含めて拠点全体を俯瞰した組織があるといい。</p>
富士田部長		<p>○創造界限全体のサポーター組織についてはひとつの手法として検討していかなければならない。また拠点間の連携では今回のヨコハマトリエンナーレで行われる Creative Waterway で試みとして行われている。</p>
六川委員		<p>○YCCの貸館レンタル事業について、プロモーションビデオ、結婚式などでの利用希望が多い。貸館レンタル事業は収益のプラスにつながるが、一方で数多く受注すればアート・クリエイターや市民活動で利用できる時間は減少する。そのあたりの適正なバランスについて、横浜市はどの程度を許容としているのか。</p>
富士田部長		<p>○横浜市としても悩んでいる事案である。ただし、収益と事業どちらかに偏ってはいけないと考えている。例えば結婚式などの要望があれば、YCCの主旨に沿った内容であること、施設の使い方が発想に適合してれば許可することも考えられるのではないかと。現在のYCCは収益も安定している良い状況なので、それを断ち切ってしまうのではなく、上手く仕分けを行い利用していけるようにしたい。</p>
鈴木委員		<p>○本来YCCはカフェ事業が主な収益事業の予定だったが、現状ではレンタル撮影所という状況になっており、ようやく自主事業を始めたところである。今の貸館レンタル事業が創造界限の活動にどうつながるのか。今後は市庁舎の移転も関係してくる場所なので、このままの活用でいいのか議論が必要である。アート関係者間でもそういった投げかけがある。</p>
恵良委員長		<p>○いずれ需要の把握が必要な時期が来るのであれば、アート関連の計画を行う前に可能性を探るための整理・分析を行っておきたい。またすべての拠点にイエスが発信の仕方について課題が出ているようである。例えば情報発信として、拠点それぞれが発信しているものをまとめて取り上げることもある。今回の事業評価でのとりまとめをベースに検討していけるといい。</p>
中山局長		<p>○横浜市は定点観測で創造都市の認知率を毎年観測しているが、なかなか数値が上がってこない。様々な施策を実施しているが現状は認知度向上に至っていない。やはり公的費用を使うので、様々な方に開かれた施設でなければならない。群として施策を実施したが、群なのか個なのかでそれぞれ手法も違ってくる。例えば急な坂スタジオのように単独での発信が難しい場合でも、スマートイルミネーションに演劇として参加するなどの取組を行っており、そういった小さなシナプスを増やし広げることで大きく力に</p>

議 題 2	鈴木委員	<p>していきたい。課題は認識しているが、まだトライ&エラーの状況下である。</p> <p>○THE BAYSの運営団体である株式会社横浜DeNAベイスターズは野球観戦の来場者にクリエイティブ活動を紹介している。これまではアートだけに興味がある人に対してだけだったが、スポーツや横浜に関心がある人に向けて新たに情報発信できるツールができています。各拠点からTHE BAYSに積極的に声を掛けて活用してほしい。</p>
	恵良委員長	<p>○情報発信については、日沼委員の発言にあった創造界隈のサポーター組織もヒントになりそうである。</p>
	恵良委員長	<p>○ありがとうございました。質問意見が以上であれば、この議案については了承としたい。</p>
	事務局	<p>2 その他</p> <p>(1) ヨコハマトリエンナーレ 2017 について (報告)</p> <p><ヨコハマトリエンナーレ 2017 についての説明が事務局より行われた。></p>
	事務局	<p>(2) 「Creative Waterway-川と海でつなぐ創造の拠点」について (報告)</p> <p><「Creative Waterway-川と海でつなぐ創造の拠点」についての説明が事務局より行われた。></p>
事務局	<p>(3) ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017 について (報告)</p> <p><ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017 についての説明が事務局より行われた。></p> <p>(4) 退任委員あいさつ 恵良委員長、久野副委員長、鈴木委員</p> <p>(5) 局長あいさつ</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	
資 料	<p>1 次第</p> <p>2 席次</p> <p>3 委員会委員名簿</p> <p>4 前回委員会議事録</p> <p>5 平成 28 年度事業評価 (資料 1)</p> <p>6 ヨコハマトリエンナーレ 2017 について (資料 2)</p> <p>7 SHOP トリエンナーレ 2017 クリエーターズグッズ (資料 3)</p> <p>8 「Creative Waterway-川と海でつなぐ創造の拠点」について (資料 4)</p> <p>9 ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017 について (資料 5)</p>	
特記事項	<p>本日の議事録については、後日各委員に送付し、確認して頂く。</p>	